

さつぽろの街づくりの基点

創成橋

橋のたもとが、市街の区画割りの基点となった創成橋。市内に現存する橋の中で最も歴史のある橋について紹介します。

創成橋は、南一条通の創成川に架けられている橋で、長さが六、九メートルしかなく注意してないと見過ごしてしまいそうな小さな橋です。しかし、よく見ると、石造りで欄干には擬宝珠ぎぼしがあり、橋の下の方はアーチ型になっている、たいへん特徴のある、歴史的な橋だということが分かります。

この橋のルーツは、明治二年（一八六九年）創成川が大友堀と呼ばれていたころ、丸太を並べた上に板を敷いただけのもので、名前も付けられていませんでした。四年に大友堀が改修された時に木造の桁げた橋が架けられ、岩村判官により初めて創成橋という名前が付けられました。なお、創成川という川の名は、後年になってからこの橋の名前から付けられたそうです。



石造りの創成橋

現在の創成橋は、市内に現存する橋の中では最も古く四十三年（一九一〇年）に架けられたものです。両側に歩道橋が架けられ、橋が見づらくなっていますが、昭和五十三年に修復したときも、一部の材料を札幌軟石から丈夫な石に補強しただけで、ほぼ当時の形を残しています。

札幌の市街は、この橋の東のたもとを基点にして南北に創成通、東西に渡島通（現在の南一条通）を設け、これと平行に東西南北に区画割されたもので、たいへん由緒ある橋です。

※現在、都心部の交通混雑緩和を目的として、「創成川通アンダーパス連続化事業」が行われており、創成橋は一時的に解体される予定です。市内最古の石橋であることから、学識経験者等による技術検討委員会を設け、復元に向けた検討が行われています。

（平成五年十二月号・第六回）